

平成二十二年 府中市郷土の森博物館

あじさいまつりの俳句優秀作品

市村 究一郎 選

特選

紫陽花の蒼にまじはりたき心地

渋谷区 佐藤 みちる

「評」心象を大胆な言い方で、艶があり面白い発想。

化粧して心晴れ行く四葩かな

府中市 小林 美智恵

「評」化粧は社会との交差点。ならば晴々として七変化。

蒼天に譲れぬ紺の濃紫陽花

日野市 松崎 淳子

「評」どちらも天の授かりもの。競い合う紺は比類ない。

あぢさるにうまれてもしかしてかなし 八王子市 小野寺 逸子

「評」七変化などと言いつ方からして哀しいことかも。

あじさいや母の笑顔は百万両 国立市 小田 喜久江

「評」紫陽花より遥かに美しい、久しぶりの母の笑顔。

佳作

風誘ひ舞台幕開く七変化

西東京市 若林 宏美

囁きを聞く下陰の濃紫陽花

府中市 奥村 和子

紫陽花の珠なす四郎記念館

川崎市 藤原 幸子

紫陽花の空に瀬音のいつもあり

国分寺市 天野登史子

楚楚とした着物姿や額の花

府中市 塩澤 登美子

白きはむ紫陽花の丈大樹かけ

府中市 渡辺 行子

水車より良き水流れ濃あぢさる

狭山市 古谷 彰宏

多摩川の風あぢさるを躍らしむ

狭山市 古谷 多賀子

紫陽花の海原に身を沈めけり

府中市 志田 礼子

紫陽花の毬手で押せば手に弾み

稲城市 福島 テツ子

市村 究一郎

昭和二年東京生れ。水原秋櫻子に師事。「馬酔木」編集同人を経て、「カリヨン」創刊主宰。俳人協会評議員